

中国電力 出力制御枠に到達！ 仕組みと経済効果の解説



【発表概要】

- ① 中国電力管内での太陽光発電設備の接続済み及び接続申込済み量が 660 万 kW に到達。
 ※30 日等出力制御枠突破
- ② 7 月 12 日以降の中国電力への太陽光接続契約には、年間 360 時間を超えた無補償の出力制御への同意が必要に。

中国電力プレスリリース <http://www.energia.co.jp/press/2018/11255.html>

補足情報

低圧の発電事業者に対して「太陽光発電設備に関する出力制御機能付パワコンへの切替等について」の案内の開始に関連した発表はありません。

また、既に出力制御枠を大きく超えている九州電力や四国電力管内で、年内の出力制御実施に関する発表はありません。

早ければ来年の春頃の制御が始まると予測されます。



実は！

出力制御に対してゼロセッチがおススメな理由

10 年間の 短期間リースだからお得！

住宅ローンに比べ、ゼロセッチなら
 短い期間で支払いが終わるので
11 年目からまるごとお得！

高品質パネルで FIT 終了後もお得！

長寿命パネルだから 21 年目以降もお得が続く！
 一生使う電気なので、
シミュレーションでは現れない経済メリットも！



次のページで売電シミュレーションを元に
メリットデメリットを解説

住宅を建てるお客様



出力制御が行われると、
太陽光発電で収益は上がらないの？

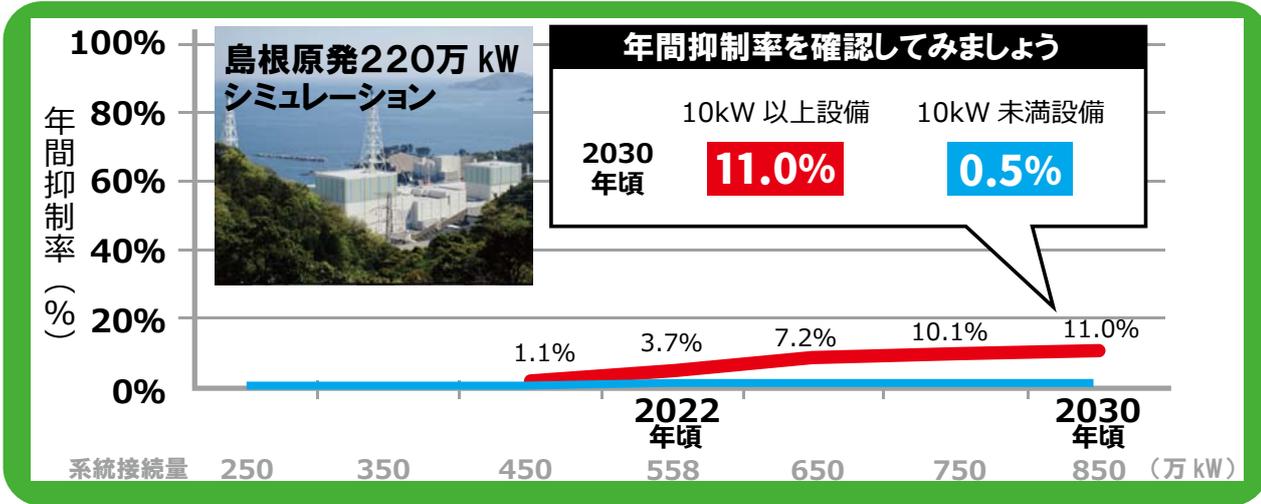
よく勉強しているイシホーム

出力制御が行われても経済メリットが出ます
グラフで見てみましょう！



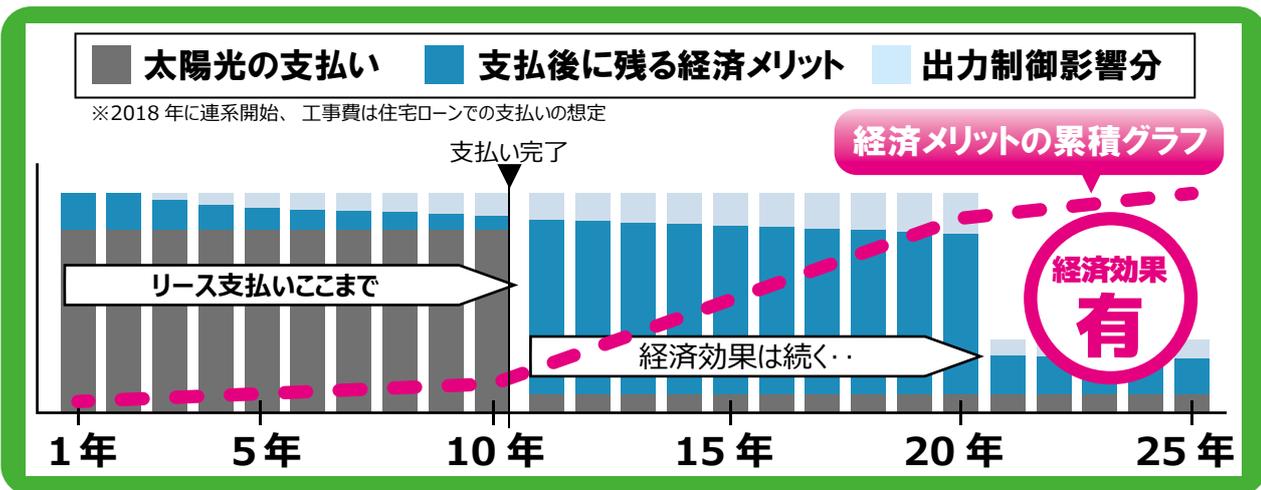
よく勉強しているイシホーム

JPEA太陽光発電協会による
シミュレーションを確認してみましょう



よく勉強しているイシホーム

JPEA の想定では年間抑制率が 10kW 以上で 11%、10kW 未満なら 0.5% と出ました。これをゼロセッチシミュレーションに当てはめてみましょう



住宅を建てるお客様



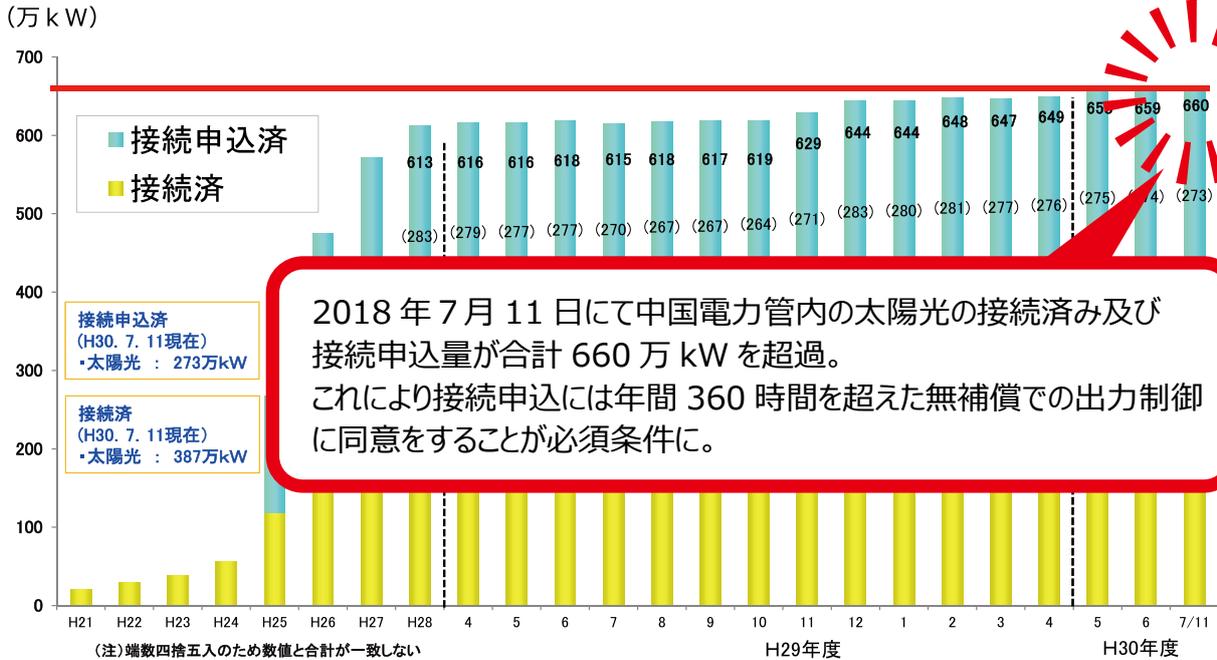
10kW 以上でも年間抑制率が低い内に支払いが終わり、
その後は経済メリットが残るんですね！
早く始めることが得するポイントだと良くわかりました！

中国電力からのニュースリリース補足



1. 太陽光発電の申込状況(当社サービス区域内)

- 太陽光発電の「30日等出力制御枠」は、660万kWです。(平成27年11月10日確定, 同日お知らせ済)
 ※平成29年10月17日に開催された総合資源エネルギー調査会 省エネルギー・新エネルギー分科会 新エネルギー小委員会 系統ワーキンググループにおいて、当社は接続可能量(2017年度算定値)を報告しましたが、30日等出力制御枠に対する増減要因が「短期的な需要変動」によるものであるため、「30日等出力制御枠」は見直されておりません。
- 当社における太陽光発電の接続済および接続申込済量は、平成30年7月11日に30日等出力制御枠660万kWに到達しました。このため、平成30年7月12日以降は、指定電気事業者制度のもと、事業者さまが年間360時間を超えた無補償での出力制御に同意していただくことを前提に、接続申込を受付けてまいります。(平成26年12月22日, 平成30年7月11日 お知らせ済)



太陽光発電設備の接続契約申込に係る出力制御の取扱いについて

接続契約申込 受付日 設備容量	H27. 1. 25 まで	H27. 1. 26 から H27. 3. 31 まで	H27. 4. 1 から H30. 7. 11 まで	H30. 7. 12 以降
50kW 未満	出力制御なし	出力制御なし	出力制御あり (年間360時間* まで無補償)	出力制御あり (年間360時間* を超えても無補償)
50kW 以上 500kW 未満		出力制御あり (年間360時間* まで無補償)		
500kW 以上	出力制御あり (年間30日*まで 無補償)	出力制御あり (年間360時間* まで無補償)	出力制御あり (年間360時間* まで無補償)	出力制御あり (年間360時間* を超えても無補償)

2018年7月12日以降の接続契約申込の案件に関しては
 7月11日までの「360時間まで」という条件から「360時間を超えても」という
 無制限の条件に移行

九州電力や四国電力と同じ状態に